

インドネシアから若手メディア関係者が訪問されました（2018/11/30）

テーマ：国際交流、インドネシア、津波
場所：東北大学災害科学国際研究所（仙台市青葉区）

2018年11月30日(金)インドネシアの若手メディア関係者の方々8名が、JENESYS2018（外務省が推進する国際交流事業、対日理解促進交流プログラム）の一環として、JICE（日本国際協力センター）の協力の下、当研究所を訪問されました。岡田真介助教(災害理学研究部門)が災害科学国際研究所の研究・活動内容を示す展示の説明を行い、山下 啓准教授(寄附研究部門)が、2018年9月28日に発生したインドネシア・スラウェシ島における地震津波およびその解析結果等について説明しました。また、3D映画「大津波」(特別編集 25分版)も上映しました。

展示の説明では、海底の地殻変動を観測するトランスポンダのしくみや解析結果、活断層に関するハザード等の評価に関しても、多くの質問がありました。また、カードゲームを使った防災・減災に対して、さらには多分野の融合研究についても関心をいただきました。

インドネシア・スラウェシ島における地震津波に関しては、津波発生メカニズムや今後の災害復旧・復興に関する多くの質問をいただきました。特に、より良い復興(Build Back Better)や東北沿岸部で進められているセットバック・嵩上げに基づく新たなまちづくりの事例に関心をいただきました。

インドネシアも日本と同様に、プレート境界およびその周辺で多くの地震が発生する地域であり、メディアを通じた災害発生メカニズムの理解や防災・減災に関わる情報発信も重要です。災害科学国際研究所で行っている研究や活動が両国および世界の災害の軽減につながるよう、今後も研究を継続する必要性を改めて感じました。



岡田助教による展示説明の様子



山下准教授による地震津波の講義の様子



記念撮影



取材の様子